



時代を映す鏡

新元号がスタートする5/1、開幕！ 日ペンの美子ちゃん原画展

ポイント
▼時代を切り取った漫画で、昭和・平成を振り返る。
▼書のまち春日井で「文字を書くこと」について考えてみる。
▼6人の漫画家に描き継がれてきた「美子ちゃん」の変化を楽しむ。



2代目 森里真美先生 (1977年～)



初代 矢吹い子先生 (1972年～)



4代目 ひろかずみ先生 (1988年～)



3代目 まつもとみな先生 (1984年～)



6代目 服部昇大先生 (2017年～)



5代目 梅村ひろみ先生 (2006年～)

○1972-
手書きが必須だった時代
美子ちゃんは
憧れのお姉さま

ボールペン習字講座の漫画広告として、美子ちゃんが雑誌に登場したのは、1972年。ちょうど、ボールペンが公的な文書に使われるようになった昭和の時代です。当時、美しい字は、事務職に役立つスキルとして、若い女性に求められていました。そのため、初代、2代目の美子ちゃんは、女性の憧れを体現したキャラクターとして登場したのです。

○1984-
少年誌の広告にも掲載
親しみやすい
みんなのクラスメイトへ

美子ちゃんの絵柄が大きく変わったのは、1984年頃の3代目。折しも男女雇用機会均等法が制定されたころ。男性の読者も受け入れやすく親しみが持てるように、頭身が低く可愛らしいキャラクターに変わります。漫画の内容も、年齢・性別問わず共感できる、学校ネタが増えていきました。

○1988-
デジタル機器が台頭
美子ちゃん、
苦難の時代

4代目美子ちゃんが登場したのは、昭和から平成へ元号が変わったころ。手書き文字を取り巻く状況も大きく変化します。過去には、ブープロのマイコというライバルも登場しますが、パソコン、携帯電話などの登場により、ビジネスにおいて、字を書くという機会が少なくなりました。2007年まで活躍した5代目を最後に、美子ちゃんはしばらく姿を消します。

○2017-
手書きが見直される今
古くて新しい
美子ちゃんが再登場

2012年、美文字ブームが起こります。デジタル全盛だからこそ、手書きが必要な履歴書、ファンレター、結婚式の招待状といったハレの書類を美しく書きたいという人が増えてきたのです。その波に乗り、2017年にTwitterで連載を開始した6代目美子ちゃんは、初代を思わせる原点回帰のルックと、時事ネタを取り入れた自由すぎる内容で大人気に。SNS上で、みんなでツッコミを入れながら楽しむのが、今の美子ちゃんのスタイルです。

6代目美子ちゃん作者
服部昇大 先生からのメッセージ
最近になって様々な企業が「漫画による宣伝」に力を入れていますが、40年以上前から広告キャラクター漫画の先駆けとして、6代にわたってひたすらストイックに日ペンの宣伝だけを繰り返して来た、美子ちゃん。
過去の先生方の描かれた数多くの原稿がありながらも、広告用の漫画なのでなかなかまとめて作品を拝める機会もなかったのですが、今回はその過去の美子ちゃん漫画が公開されると聞き、いち美子ちゃんファンとしても楽しみにしています！

日ペンの美子ちゃん原画展
5/1(水)～19(日)
※5月7日(土)、13日(金)休館
10:00～17:00(入場は16:30まで)
@文化フォーラム春日井・ギャラリー
入場無料



この方にお話を伺いました！
(株)学文社・浅川貴文さん
時事ネタと共に
美子ちゃんを楽しんでください！